

沖縄・高江の集会に参加して考えた

11月9日、高江の「水曜日集会」に行ってきました。朝からの雨で肌寒く、合羽を着て整然と座り込んでいました。周囲には機動隊の大型車がずらりと並び、所有者不明の乗用車が何台も放置状況になっていました。およそ警戒している雰囲気以上の異様な情景です。

自然を守りたい、今暮らしている土地を守りたい、平和な時を守りたい—それだけの思いを訴えていることが、どうだっているのですか。誰が建設、移転、埋め立て工事を指示しているのですか。日米の約束だから？。有事の時は守ってくれる？。過去にも「沖縄にご負担をおかけしていますが…」という言葉を重ねていた大臣がいた。誰が正しくて誰が悪いという問題なのか。

7時からの集会に少し遅れて参加し、15時までいました。いろんな人たちがそれぞれの立場や見方で意思表示しました。それは、誰かに頼まれて話しているのではないということが肌で感じられました。10時には「ちんすこ」などのお菓子が。11時半には両手いっぱい握られた「みそ入りおにぎり」をそつと差し出されました。また、学生のグループやプロのミュージシャンもマイ

クで真剣に矛盾と疑問を投げかけました。集会は楽器あり、替え唄あり、と明るい雰囲気です。

何も危険な行動をとる様子もない集会を、威圧するかのようには控えている機動隊や警備員。この人たちの一日の業務はどんな報告書として記録されるのだろうか。これらの様子はテレビや新聞紙面を通して感じる以上に生々しく、強い憤りが湧いて来ました。

沖縄だけの問題でない。日本国内にある米軍基地、原発事故などを捉えて見る目や耳、口を持ち続けなければ—と改めて実感した沖縄支援ツアーでした(藤田美由紀)。

ニュース・フラッシュ

- 9月19日 ピーステント
- 22日 県革新懇の「総会」
- 24日・25日 北信越ブロック交流会が長野で開かれ、日谷、山野、柴原、柘田さん参加
- 26日 小松基地爆音訴訟公判
- 10月6日 県原水協が、エムザ前で「6・9署名行動」
- 13日 れんこんの会が「沖縄学習会」を行い、3人が報告
- 15日 沖縄連帯街宣(エムザ前)
- 17日～21日 小松基地の騒音測定
- 19日 ピーステント

- 20日 戦争をさせない石川の会が映画「ひとりっこ」を上映
- 22日・23日 日本平和大会に石川から5人が参加(別項参照)
- 11月3日 憲法集会が金沢・歌劇座で開催され、北村肇氏(週間金曜日の発行人)が講演

7日 「平和ガイド」コープ石川の皆さん20人を山野事務局長が金沢城周辺の戦跡を案内。写真=第9師団司令部庁舎前で

- 8日 沖縄支援ツアー(11日まで)に6人参加
- 9日 6・9行動。昼デモ
- 13日 「辺野古裁判学習集会」が近江町交流プラザで開かれ、榊原秀訓氏(南山大教授)が講演しました
- 15日 沖縄連帯街宣
- 19日 ピーステント
- 23日 市民アクション「街頭集会

とデモ」に150人が参加。山野事務局長が自衛隊の南スーダン派遣や沖縄・高江の闘いを報告しました=写真

- 27日 県原水協の「創立60周年記念レセプション」が県労連会館で開催され、加盟団体から40人余が参加しました。記念文集を発行

16年 日本平和大会in三沢 参加報告

石川民医連 Mさん

大会は青森県三沢市公会堂を主会場に10月22日～23日に開催され、石川県から非核の会や民医連、平和委員会から5名が参加しました。

毎年、米軍基地がある所で開催され私は昨年の御殿場に続き2回目の参加です。1日目は基地視察と開会集会。2日目は分科会の後、閉会集会があり市内パレードを行いました。

■三沢基地視察

まず、三沢空港ターミナルの展望デッキで説明を聞く。ここも小松空港と同じように基地の一部を民間航空が利用している。小松は自衛隊だが、ここは米軍。空港から滑走路の間にはゲートがあり飛行機の発着のたびにゲートを開け閉めする。ゲートの向こうはアメリカである。空港を出て滑走路の飛行ルートの下にあり集団移転した地域の跡地を見学。何もない原っぱに本当は町があったのだ。小松にも集団移転した浜佐美町があるが全国で同じ様なことがあることを改めて認識した。移転の記念碑文にはF16戦闘機の夜間訓練タッチ&ゴーが昼夜区別なく騒音激化と書かれていた。土曜日で訓練がなく戦闘機が飛んでいないが小松よりひどい騒音だと思う。何百年も先祖代々暮らしてきた人たちが米軍の騒音に耐えられず土地を追われるのは全くおかしな話である。その後、米軍軍属の住宅やアメリカ村を通り開会集会会場の三沢市公会堂へ。

■開会集会

オープニングイベントの後、各代表者挨拶のあと、自衛隊の制服で登壇した元隊員と自衛隊員の子を持つお母さんの話には南スーダンへ新たな任務を持って派遣されるかもしれない現時点でより危機感を感じられ

た。「ザ・思いやり」の映画監督パークレーさんが撮った三沢のレポート映像は、本当に日本の矛盾がユーモアを持って描かれていた。

分科会③ シンポ=米軍三沢基地撤去の世論と運動をどうつくるか

4名のシンポジストの話の後に各地の報告と質疑が行なわれた。三沢市は米軍基地との共存共栄を掲げ発展してきた町だが、中心商店街はシャッター通り、整備した「アメリカ村」も閑散として活気は見られない。基地で経済が維持されているように思えるが、長い目で見れば海外の米軍基地は減ってきている。また沖縄に見られるように民生利用で雇用も生まれる。戦闘機の低空飛行訓練で「比内地鶏」大量圧死などの実害もある一等、各地の平和委員会の取り組みが報告された。沖縄民医連平和委員会から12名が参加し、辺野古や高江の支援行動などの報告があった。

■閉会集会

息子が自衛隊員という富山さんの南スーダンに派遣される危険性についての訴えやフィリピンのウォルデン・ベロさんの話があり、その後市内をパレードした。

《感想》

大会は土日の開催なので基地視察では訓練が見られず残念だが、広大な敷地と思いやり予算で建てられた住居など見るにつけ、5年経っても仮設で暮らす人がいる政治に腹立たしい思いで一杯になる。同じ思いを持って地道に活動する人々がいて、その経験を聞くことができるのがこの大会である。基地による被害はなかなか報道されないと思うし、知らない事も多々ある。知ったことを少しずつでも周りに広めていきたい。